

雑誌掲載論文紹介

LNG：アジアの需給指標となる米国¹

戦略・産業ユニット総括 研究理事 森田 浩仁

米国では液化天然ガス（LNG）輸入が回復・拡大中である。

同国の LNG 輸入は 07 年に歴史上最大の 771Bcf（LNG 換算約 1620 万トン）を記録したが、08 年は 352Bcf（同 740 万トン）へと 54%も落ち込んだ。しかし、今年 5 月の輸入量は対前年比 54%増を記録し、1-5 月の累計も 191Bcf（同 400 万トン）と昨年を上回った（Bcf=10 億立方フィート）。

◎需要低迷下の輸入拡大

米国では、今年 1-5 月期の天然ガス消費は対前年比で 5%、工業用に限ると 13%ものマイナスを記録した。一方、同期間の生産量は対前年比 3%、前々年比で 13%も増大している。ガス価格の急落により掘削リグ稼働率の大幅な低下も伝えられるが、今年前半、生産は堅調であった。

天然ガス在庫は 3 月中旬以降一貫して増加を続け、6 月末には過去 5 年平均を 20%上回る 2721Bcf（同 5710 万トン）にも達した。10 月末には 3670Bcf（同 7700 万トン）に拡大すると EIA（エネルギー情報局）は予測する。

輸入の必要性は薄れ、1-5 月期のパイプラインによる輸入量は 9%減少した。しかし、LNG 輸入は拡大している。つまり、需要低迷、生産堅調、そして在庫膨張下という状況下で、LNG 輸入が拡大するという不思議な現象を呈しているのだ。

◎なにゆえの輸入拡大か

米国の LNG 輸入が 08 年に激減したのは、特にアジア諸国の需要が旺盛であったため、米国向けの LNG が好条件、高価格を求めてアジア諸国に仕向地を変更したからである。ところが今年、逆向きの風が吹き始めた。

09 年 5 月、世界最大の LNG 輸入国であるわが国の輸入量は、423.3 万トンと前年比 18.9%のマイナスを記録した（財務省）。月間輸入量が 500 万トンを下回ったのは 06 年 4 月以来である。ソース別に見ても、すべての供給国で前年を下回っている。

近年、新興供給国によるスポット供給の拡大は、著しい。しかし今年、ナイジェリア、エジプト、赤道ギニアが日本向け輸出を大きく減らし、トリニダード・トバゴ、ノルウェーからの輸入はいまだ記録されていない（5 月末時点）。

¹本稿は「電気新聞」2009 年 8 月 19 日に掲載された記事について転載許可を得て掲載いたしました。

一方、ナイジェリア、ノルウェーの米国向け1-5月期の供給量は対前年比2-3倍、エジプトは同6倍に増加している。つまりスポット玉は日本から米国に再び方向を変えているのだ。

5月の日本着LNGのCIF価格は100万Btu(英国熱量単位)当たり7.44ドル。対して、米国着は3.68ドルであった。この価格差が示唆するのは次のとおり。

「スポット玉は日本を目指したい。が、日本のユーザーは、安くてもノーサンキュー」。

◎価格に下方圧力も

米国は世界最大の天然ガス消費国である。LNG受け入れ能力は年間1億トンを超えるが、稼働している能力は一部のみ。余剰LNGはいくらでも受け入れ可能だ。ただし、国産ガスと経済的に競合しなければならない。

アジア太平洋市場では昨年、ラスガスⅡが台湾向けに300万トンの出荷を開始。今年3月にはサハリンⅡの第1トレインが立ち上がり(480万トン/年)、6月にはインドネシア・タンクーが年間760万トンの生産・出荷を開始した。さらに数ヶ月以内にイエメンLNGが韓国に向け年間200万トンの供給を始め、年末にはサハリンⅡの第2トレインも稼働を開始する。これでアジアの需要は十二分に満たされる。そして、年間生産能力1560万トンのラスガスⅢからの生産開始も近い。生産されるLNGのほとんどが、世界市場を睨んで柔軟に仕向地を変える。米国を目指すLNGは益々増えていくだろう。

懐の深い米国は安価でこれを受け入れるが、在庫は膨張し、国産ガス価格に下方圧力がかかる。その圧力は再びLNGのスポット価格に影響を及ぼす。

当面は、安価なスポット玉に事欠くことはないだろう。

お問い合わせ：report@tky.ieej.or.jp